

平成28年度「清流の国ぎふづくり」
自然共生工法写真コンテスト

審査委員会からのコメント入り

応募作品

No.1
～
No.25

主催 岐阜県自然共生工法研究会
共催 岐阜県



①

施行前



施行後



作品タイトル	多自然型石組工法による魚道機能の回復
撮影場所	下呂市小坂町大洞地内 木曾川水系 葛谷
撮影者／撮影日	細江 和彦 ／ 平成28年7月27日
応募者コメント	魚類など水生生物の遡上や周囲景観とのマッチングを重視した施工。 護岸根固工は巨石張工(コンクリート練張)にて施工、深目地仕上げとした。 えん堤右岸側、魚道入り口へのアプローチとなる護床工および魚道工は、巨石をワイヤ・アンカー連結による石組にてワンドを造形した。
<審査委員会からのコメント> 施工前後の写真比較から、災害復旧として短期間に整備・改良された様子はよく示されていて「魚類など水生生物の遡上」にはよいですが、「周囲景観とのマッチング」については、石で囲まれたプールの規模や配置が規則的で渓谷らしい深みが無くなるなど、河床がやや単調で固定的すぎ人為を感じてしまいます。 例えば、護岸下部の巨石練張工を「護岸根固工」とすると、河床から突出し過ぎですし、左岸側は広すぎるように見えます。根接ぎを兼ねているとしてももっと工夫できたように思います。また、魚類が右上の砂防堰堤を越えられるのかも心配になります。	

②



作品タイトル	街中の新緑のトンネル
撮影場所	岐阜市司町(ぎふメディアコスモス)
撮影者／撮影日	上野 公彦／平成28年5月21日
応募者コメント	平成27年7月に完成した、ぎふメディアコスモスの一角にある歩道です。歩道沿いの新緑、ベージュ色の舗装、澄みきった青空、陰影等のコントラストが鮮やかで、吸い込まれそうな新緑のトンネルです。
<審査委員会からのコメント> 都市施設の一部として整備された歩道と並木で、両側に小川と広場も配置された、市街地での重要な空間について、市民の憩いの場としての構造的・機能的設計の意図を漏らすことなく納められた良い写真となっています。 直線を基盤とした欧風公園を感じさせる景観であるため、自然共生の観点からはこれだけでは良さを感ぜられず、並木として選んだ樹種、水源にも言及した小川の働き、歩道舗装の通水性などについて、説明が不可欠であったように思います。	

③



作品タイトル	桜の魔法をかけられた川
撮影場所	揖斐郡揖斐川町極楽寺(桂川)
撮影者／撮影日	上野 公彦 / 平成27年3月31日
応募者コメント	何の変哲もない川に沿って、両岸に桜が植えられており、桜のトンネルがどこまでも続いています。 せせらぎの音を聞きながら、川沿いに歩いてみたくなる風景です。

<審査委員会からのコメント>

「何の変哲もない川」のフレーズから始まる説明のみですと、桜と地域の美しさは表現したきれいな写真であるだけに桜の植樹だけのようにも見え、自然共生工法としての取り組み・工夫という面は弱いと思わざるを得ないです。

実際には、桂川から一度分派した後再び合流するかなり特殊な川で、自流域をほとんど持たない、揖斐川から取水された農業用水を流している水路のような河川です。

石積み護岸の河岸に沿って桜や草花が植えられ、生け垣や土羽部の雑草もよく刈り込まれていて、心地よい情景が醸し出されています。

地域の自然にマッチした田園地帯の良好な居住空間が地元の方々や用水管理者の手によって長く維持されているのだと思います。

④



作品タイトル	夏色の清水緑地
撮影場所	岐阜市加納清水町
撮影者／撮影日	久保田 圭 / 平成28年8月27日
応募者コメント	平成17年にJR岐阜駅南口に広がる「清水緑地」は比較的新しい自然に親しめる親水公園です。ホタル、カワニナ等が生息できる池やせせらぎを新たに設けられ、大きなビオトープと言えるようないい空間になっています。街中で夏の日、川面に映る緑と青空がとてもきれいです。
<審査委員会からのコメント> 中核都市の街中にある親水空間として、また、自然と触れ合える良好なビオトープとして、市民の憩いの場となるべく整備されたもので、地域の取り組みもあって10年経過した中で継続管理が行き届き、「ふるさとの風景」にもなりうる、すばらしい景観をもたらしています。写真からは、そのような親水公園の全体的な状態がよく伝わってきますが、水辺空間がもう少し強調されているとさらによくなっていたかもしれません。 さすがに、撮影された8月下旬の昼間だと整備していても人が水際に近づかないのは猛暑の都市環境によるものなのでしょう。 やや植生が単調になっているようにも見えますが、水生生物にとっても街中の貴重な生息環境を与えているようですので、その情報もほしいところです。	

⑤

施行前



施行後



作品タイトル	【環境保全を考慮した自然共生川づくり】
撮影場所	山県市高富地内
撮影者／撮影日	高橋 徹 / 平成28年8月31日
応募者コメント	流路を蛇行させ水の流れに緩急をつけ瀬や淵を造成しました。又、水際より高くなるようなテラスを設けて植物を繁茂させることで、自然と共生した川を創出しました。様々な生き物の新たな出会い「ビオトープ」はここにあります。
<審査委員会からのコメント> 都市内河川特有の両岸コンクリートブロックの河川において、平水時の「流路を蛇行させ」たのはよいのですが、それによる環境の多様性や変化など、「水の流れに緩急をつけ」たと見られる効果は、写真を見る限り、淵の深みや瀬の流れが明確ではなく、水面近くから撮るなど、見せるためのもう工夫が欲しいところです。 河床幅に多少余裕があるようなので、今後蛇行させた流路の変化も期待できそうですが、現時点では幅が一定で、両岸のテラスも平水面からの高さが同じようで人工的に見え、繁茂する植物も単調になりかねないようで残念です。	

⑥

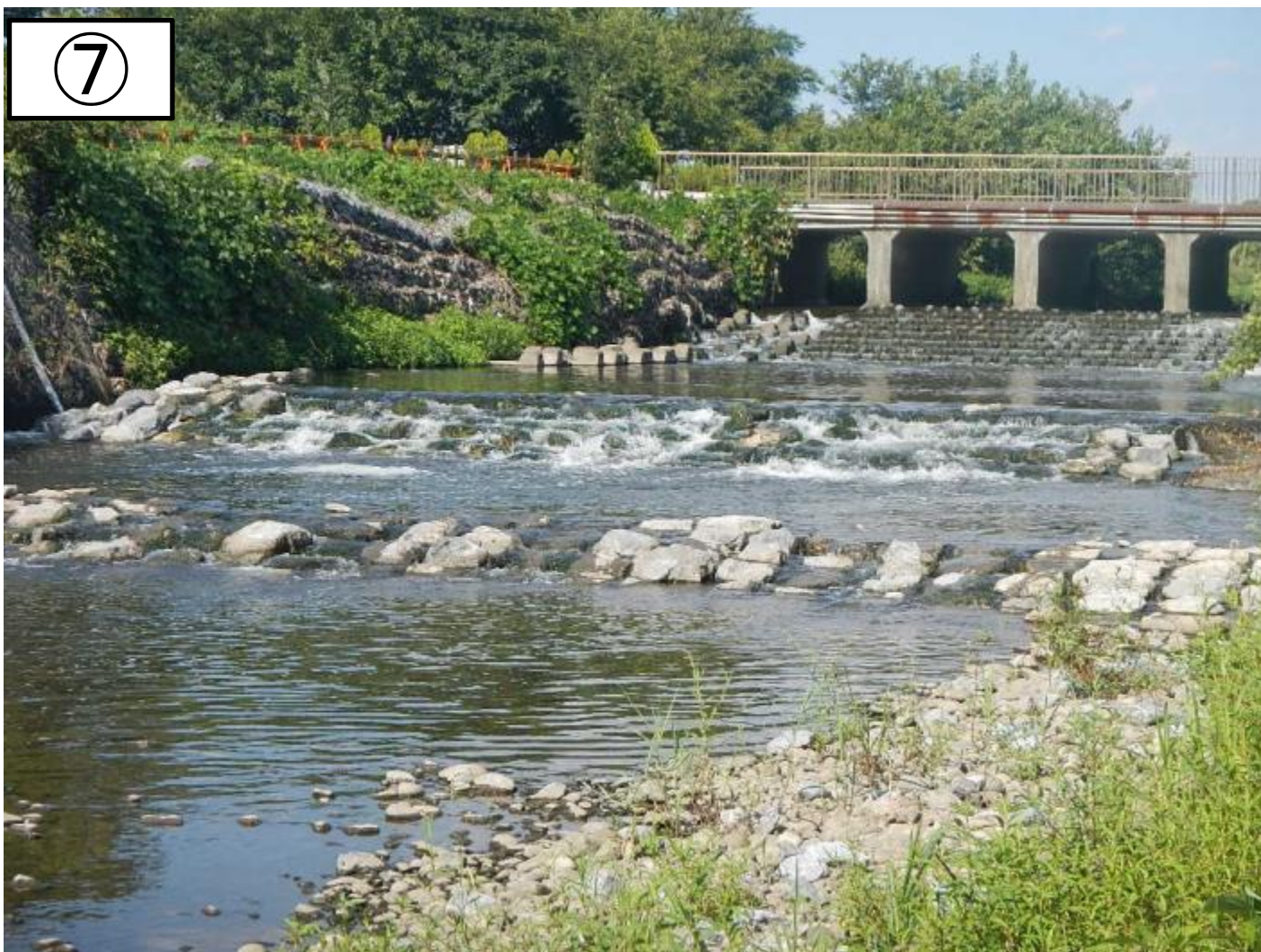


作品タイトル	石田川ベストリバー
撮影場所	石田川(岐阜市山県岩中)
撮影者／撮影日	岐阜県岐阜土木事務所 河川砂防課 / 平成28年8月31日
応募者コメント	岐阜県では、石田川においてベストリバー推進グループを平成26年に設置し、治水・親水・環境の観点からベストな川づくりを進めています。本箇所は、みお筋のない平坦な河道に高さの違うテラスを試験的に施工しました。

<審査委員会からのコメント>

河川の弯曲部における土砂堆積を模した河岸テラスを造成し、対岸の水衝部にコンクリートブロックを配したことで、自然に近い流れの様相が醸し出されていて、親水性については不明ですがベストリバー推進グループで議論されたことの成果が見られます。

コンクリートブロックにアオサギが佇んでいるのも水面とのコントラストがあって、写真にアクセントを与えていますが、「高さの違うテラス」が読み取り難いなど、ベストリバー推進の意図を明瞭に訴えかける画像には今ひとつなりきれていないです。施工前後の比較など、どの箇所に手を加え、それによって平坦な河道がどう環境が変化したのかがわかれば良かったと思います。



作品タイトル	北派川落差工
撮影場所	北派川(各務原市川島笠田町)
撮影者／撮影日	岐阜県岐阜土木事務所 河川砂防課 / 平成28年8月31日
応募者コメント	岐阜県では、「環境に配慮した新たな落差対策施設」を開発するため、木曽川水系北派川(各務原市川島笠田町地内)において、「実河川における実験落差工の研究」を実施しており、その成果を県下の川づくりに展開することを目指し、モニタリング調査などを実施しています。
<審査委員会からのコメント> 「実河川における実験落差工の研究」は分かるとして、今回このタイプの落差工で何を目的・対象として実験したのかの説明がないため、写真で表現したいことが十分には掘めません。一般向けというよりも専門家向けの写真といえますので、アングルの工夫など、より効果的に表現できると良かったです。 2段の落差工に用いられている石材はいずれもよく似た形状をしており、この流量では上流側の落差工に白波が全面的に立っていますが、置かれた状態に適度の凹凸が生じていて、越流水に多様な表情を持たせています。 この工法に限りませんが、モニタリング調査に基づいて種々の問題点を整理・克服して現地への適用を試みて欲しいです。	

⑧



作品タイトル	全面式岩組魚道
撮影場所	下呂市野尻
撮影者／撮影日	岐阜県下呂土木事務所 河川砂防課 ／ 平成28年8月31日
応募者コメント	床固工に階段式魚道が設置してあったが、垂直壁下流の河床低下による落差が大きく、魚道下流部まで魚類が遡上できない状態であった。自然環境、景観などに配慮した河川整備方針を考え、岩組工法を用いて魚道機能の回復工事を行った。
<審査委員会からのコメント> 施工前の河道状況は不明なのは残念ですが、維持の困難な急流河川において、巨石等の自然石を用いて多段のプールを有する流れを工夫して創出し、河床の保護と水生生物の生息環境の保全を図られています。応募写真からはその効果を推察することができます。 すなわち、水量のある時季にやや低いアングルで撮られた写真は、魚道機能が前面に出て、周辺景観との馴染み具合やプールの規模・配置、河岸法先の自然石張りに人工を感じさせるくらいがあるものの、落差と水流の多様性を良く分かるように見せており、逆に、機能美や迫力も感じさせるなど、よい出来映えとなっています。	



作品タイトル	川幅を変えてみた。
撮影場所	木曽川水系付知川 中津川市福岡町地内
撮影者／撮影日	岐阜県恵那土木事務所 河川砂防課 / 平成28年8月25日
応募者コメント	左岸に水制(バープ工)を設置し中洲との川幅を狭くした結果、川は右岸に流れ早瀬ができ、左岸には淵ができた。 結果、淵には幼魚や水中昆虫が生息しやすい場所となった。
<審査委員会からのコメント> 変哲もない自然河川の一形態として表現された興味深い写真で、美しい景色から自然の営みは感じられるすばらしい整備をされたと想像します。 ただ、逆にこの河川景観を見る限り、弯曲部や中洲もあってさほど単調な水域ではなかったようですので、施工前後の比較から「左岸に水制(バープ工)を設置し中洲との川幅を狭く」する必要性がどの程度であったのか確認したくなります。また、バープ工による取り組みの内容や効果を写真で表現するには、手前右の釣り人付近の情景はかえって邪魔になっているのではないのでしょうか。	

10

施行前



施行後



作品タイトル	【自然と共生した災害復旧工事】
撮影場所	本巣市根尾黒津地内 木曽川水系 越新谷(おしんだに)
撮影者／撮影日	高橋 徹 / 平成28年9月1日
応募者コメント	橋台基礎の洗掘防止を考慮した護岸工・護床工を施工しました。護岸工は法肩に植物の繁茂を促すよう粗面ブロック積を施工し、護床工には現地石材の利用で周辺環境との調和を図りました。美しい山河を守る災害復旧工事を目指しました。
<審査委員会からのコメント> 護岸法肩に採用された粗面ブロック積の上には植物が繁茂おり、自然景観に溶け込んだ画像としての効果が表現されています。 しかしながら、河床・河岸は、現地石材は活用されているが、化粧石で防護しただけのようにも見え、被災直後に生じていた顕著な凹凸によるてプールや流れが適度に集まった落差がほとんどなく、自然共生としての評価を難しくしています。 災害復旧として短期間に整備する必要性は理解でき、また、どの程度水生生物へ配慮すべきかについても議論の分かれるところですが、落差・護岸・河床すべてに人工感が漂っており、自然共生の工夫としては課題が残されているようです。	

11

施行前



施行後



作品タイトル	生き物が棲みやすく美しい溪流環境づくり
撮影場所	郡上市大和町大間見(大間見川)
撮影者／撮影日	大日コンサルタント株式会社／平成28年9月1日(木)
応募者コメント	大間見川では魚道下流の河床が低下して、水生生物の移動が困難になりました。そこで、魚道下流に連結自然石の帯工群を設置して、落差を緩和する補修工事が行われました。山間地の自然河川にみられるステップ&プールの河床構造となり、河床の安定や生息環境の改善が図られました。
<審査委員会からのコメント> 施工前後、とくに施工前の写真では比較的流量が多いため、移動の困難な状態が分かりにくいですが、施工後には落差部においてもプール状態が確保されていて、河床の安定や生息環境の改善に効果を発揮し、石の配置の不規則性がよく、上流域の景観として自然で景観にも配慮した工法だといえます。 施工前後を比較しますと、かつての多自然型の試行錯誤とそれを踏まえた現在の考え方との違い、その間の進歩が理解でき、出水後の状況は気になりますが、工夫で大きく改善できた工法として評価できると考えられます。 このように、写真には、護岸が隠れていて周辺環境と一体化している様子や、連続性の確保などの自然石の帯工の効果が良く表現されていて、魚道機能の復元にあわせ良好な生物の生息環境の創出がされていることが分かります。しかし、全体的にインパクトが弱く、施工前後の状況が同一アングルで示すなど、あと一工夫がほしかったといえ少々残念です。	



作品タイトル	自然石を配置した全面斜路式魚道
撮影場所	可児郡御嵩町御嵩
撮影者／撮影日	岐阜県可茂土木事務所 河川砂防課／平成28年9月1日(木)
応募者コメント	平成27年度に岐阜県が修繕工事を行い、魚道機能の回復を図った、自然石を配置した全面斜路式魚道。
<審査委員会からのコメント> 落差工の下2段の棚田式魚道と組み合わせた「自然石を配置した全面斜路式魚道」で、斜路式部分は中段まではプールもあってよい状態も見られますが、最上段は落差があり、落下する水脈が薄く全面的に白泡して遡上しにくいように思われます。 取り組みの意図は理解できますが、写真では巨石の配置がやや不自然で人為の感じられる点は否めず、アングルなどで解消する工夫が望まれます。 水量が少ないときも含め、実際の効果がどのように発揮されているかは知りたいところです。	



作品タイトル	景観ブロックで工事された川
撮影場所	瑞浪市日吉町
撮影者／撮影日	三輪 真一 / 平成27年7月14日
応募者コメント	現地の景観、及び植生に配慮し、砂処理タイプブロックを使用することで、周辺景観と違和感のないようにした。一部では植生ができています。
<審査委員会からのコメント> 「砂処理タイプブロック」の使用によって、景観における護岸コンクリートの突出感が抑えられています。また、階段工設置区間では、転石も配置されて親水性に配慮されていますし、対岸には砂州が出来ますが、全体に水際植生が少ないようです。 護岸には植生で覆われている箇所も見られ、周辺に馴染んだ河川景観を産み出していますが、事前の様子が不明のため、写真を眺めただけでは、主題のブロックやコメントされている内容が判り難く、景観ブロックの良さの表現が弱くなっているのは残念です。	



作品タイトル	ネコギギが隠れている川
撮影場所	美濃加茂市三和町
撮影者／撮影日	三輪 眞一 / 平成28年8月31日
応募者コメント	国の天然記念物であるネコギギが生息するため、通常の魚巣ブロックではなくネコギギを対象とした魚巣ブロックを使用。また、護岸には景観に配慮したポーラスブロックを使用している。ネコギギの生息しやすい川づくりに配慮した。
<審査委員会からのコメント> 写真から手前の「景観に配慮したポーラスブロック」の状態はよく分かります。また、「ネコギギを対象とした魚巣ブロック」を使用したことは環境配慮の意欲的な取り組みですが、残念ながら、写真からそのブロックの様子を確認することができず、意図がよく見えないのはもったいないです。 整備効果のわかるような写真の工夫とともに、是非、工夫したことでどう変化したのか、効果があつたのかについての情報を入手して下さい(ただ、公開は慎重に)。	



作品タイトル	巨石風魚道のある川
撮影場所	関市千足
撮影者／撮影日	共和コンクリート工業(株)岐阜営業所 / 平成28年6月1日
応募者コメント	いろいろな魚類がのぼれるよう、通常の根固ブロックではなく、魚道機能を付加した擬石付護床ブロックを使用。魚道の設置だけでなく、災害に強い川づくりに配慮した。
<審査委員会からのコメント> 床止め工に「魚道機能を付加した擬石付護床ブロック」を用いて全面魚道を兼ねさせているようです。 比較的流量が多いときのように、写真には流れの連続性が表現されていて、3面張りとなっている河道を感じさせませんが、落差の最上流部が切れているため評価が難しくなっています。 制約条件の中では工夫がみられ、流れが速いため、部分的に泡立ちなどが生じていますが、色々な流れをもたらす巨石の効果が期待できる付加価値を備えた有用な施工事例と思えます。さらにいえば、擬石により自然な点在感を持たせる工夫を望みます。	



作品タイトル	巨石風ブロックで工事された川
撮影場所	郡上市大和町落部地内
撮影者／撮影日	共和コンクリート工業(株)岐阜営業所 / 平成18年8月16日
応募者コメント	現地の景観、及び植生回復に配慮し、ブロック全体を客土することにより、ブロックを護岸から隠し景観に違和感のないようにした。客土には現地発生土を使用することにより現地の植生回復に配慮した。
<審査委員会からのコメント> 深目地の巨石積みを模した「巨石風ブロック」を用いた護岸工で、写真では流れの連続性は表現されていますが、それがこの護岸工の効果とは判断できず、巨石が散見される河床に比して、そればかりの河岸には違和感を覚えてしまい、河積を小さくしているようにも見えてしまいます。 「ブロックを護岸から隠し景観に違和感のないようにした」との説明ですが、一部地域の植生は残っているものの客土はほとんど流されて擬岩が露出していて、景観面での評価の分かれるところとなっています。撮影日が10年前なので現在の状況がどうか知りたくります。	

17

施行前



施行後



作品タイトル	桂川
撮影場所	揖斐郡揖斐川町桂、上南方(桂川)
撮影者／撮影日	岐阜県揖斐土木事務所 河川砂防課 ／ 平成28年9月2日
応募者コメント	河川改修施工後3年たった状況です。 水際に適度に洲がつき、植生が回復するとともにみお筋を形成しています。
<審査委員会からのコメント> 玉石の野面積みの護岸と捨て石・寄せ石による若干贅沢な河川改修が実施された箇所で、写真は「完成直後と3年後」と説明すべきですが、滞筋の形成状況がよく表現されています。 実際、「水際に適度に洲がつき、植生」で覆われており、立木も見られ付きすぎて流れの障害になっていないか気になります。 河川の自然から土砂堆積が容易に予測される弯曲内岸に単調に寄せ石を配するなど、何をどう工夫したのかが不明な面も否めません。 今後、前後の撮影アングルを同じにするなど工夫していけば、経過観察の事後フォローとして評価できます。	



作品タイトル	小魚にやさしい落差工
撮影場所	揖斐郡揖斐川町谷汲神原 飛鳥川
撮影者／撮影日	日建工学株式会社 中部営業所 / 平成28年9月1日
応募者コメント	自然石連結ブロックを使用した落差工と魚道工を施工しています。コンクリートブロックを使用した落差工と比較すると、より自然になじんだ景観になっています。また、小魚が上りやすそうな落差です。
<審査委員会からのコメント> 割石9個が1ユニットとなっている「自然石連結ブロック」であるため、自然石を使っても単純に設置してしまうとどうしても整然とした配置になり、不自然さが強調されて人工感を払拭できません。流れに乱れがなくて小魚が上りやすそうにも見えますが、少し流量が多くなると逆に高流速になりそうです。 湧水状態なので、工夫をされている状況が捉え難い写真となっているため、そこから、少しでも水流の表情を豊かにする工夫を感じるのは難しいですが、自然になじんだ景観とまではなっていないのは否定できず、基盤に凹凸を付けて配置するなど、今後の研鑽を望みます。	



作品タイトル	水辺の運動会
撮影場所	揖斐郡揖斐川町谷汲神原 飛鳥川
撮影者／撮影日	日建工学株式会社 中部営業所 / 平成28年9月1日
応募者コメント	自然石連結ブロックを使用した落差工と魚道工を施工し、自然になじんだ景観を見ることができます。緩急のある清流を上ったり下ったりしながら、今日も魚たちの水中運動会が開かれているかもしれません。
<審査委員会からのコメント> コンクリートで造られた落差工本体という既設構造物に対して、河川環境機能の向上に向けいろいろと努力されていますが、自然になじんだ景観とまではなっていないと思われます。 写真に写っている個々の魚道工間の関連が見えづらく、何らかの統一性をもって全体として考えるべきで、一部分だけの改修に注目するだけでは意味が薄れてしまいます。 説明では、「自然石連結ブロックを使用した落差工」とありますが、それが使われているのはどちらかといえば護床工の部分で、本体部分の越流水は薄く、水生生物には厳しい場所が残されているようです。各種の魚道の違いを活かして、遡上モニタリングの実験箇所としていくことも考えられますが。	

20

施行前



施行後



作品タイトル	擬石付根固ブロックによる落差解消
撮影場所	武儀川 関市千足
撮影者／撮影日	岐阜県美濃土木事務所／（着工前）平成27年8月21日 河川砂防課／（施工半年後）平成28年9月1日
応募者コメント	田園と河川をつなぐ水路の落差解消のため設けた擬石付根固ブロックです。擬石の効果で、自然に近い水の流れを創出しており、魚類の遡上を促します。また、擬石にはコケなどの付着も見られ、景観の面でも周辺の植生と調和しています。
<審査委員会からのコメント> 河川と農業排水路との間には、流下物や土砂が滞留して、門扉の開閉、主に閉鎖操作、に支障を来さないようにする目的で落差やコンクリート水路が設けられてきましたが、自然再生、自然共生の観点から落差をなくす試みが全国的に進められています。この地点では巨石を模した「擬石付根固ブロック」を配して用水路出口との落差を解消しています。コンクリート水路上の流れや門扉下部からの吐出流れに加え、その背後の水路から圃場の状況も気になりますが、農地との連続性を確保する工法は、水生生物の生息域を広げるためには不可欠で高い意義を有しています。 夕暮れ時のような施工後の写真は、流量豊かなときの山間の溪流を思わせる良好な流れが落差を解消したことを見せていて、農業排水が中流域の河川に流れ込んでいることを忘れさせてくれます。	



作品タイトル	初夏のモネの池
撮影場所	関市板取
撮影者／撮影日	古田 清 / 平成28年5月27日
応募者コメント	池の水が湧き水であることに加えて、池の底質の白い砂地とスイレン等の水生植物は、更なる透明感を演出しています。水際の植生も自然で、人道橋には木材や擬木が使われており、周辺の景観に馴染んでいます。
<審査委員会からのコメント> ウィキペディアによれば、1980年頃に灌漑用に整備された付近の(高賀)山麓湧水を集める小規模貯水池において、その後生い茂った雑草を地元の方が除草し睡蓮やコウホネを植えたことで良好な景観になったのですが、ニシキゴイは誰かが勝手に放流したそうです。 神社横にある湧水を利用した公園内の池のようなきれいな写真で、写真としての出来映えが素晴らしいので、一般投票で最高順位を獲得されました。湧き水と池底質の白い砂地は希な水環境といえますが、そのような場にニシキゴイは不自然で、応募の説明文だけからでは自然共生という観点からは少し逸れているようですとの感は免れません。	



作品タイトル	朱色と白色のコントラスト
撮影場所	美濃市前野
撮影者／撮影日	古田 清 / 平成28年6月1日
応募者コメント	美濃橋は、ちょうど100年前に完成した吊り橋です。存置された岩盤、橋台に貼り付けられた石材や玉石護岸は、周辺の景観に良く馴染んでおり、塗装された朱色のトラス部と白色の主塔を引き立たせています。
<審査委員会からのコメント> 100年の歴史の尊重には共感できます。きれいで景観にとけこんでいると感じる人は多いですが、見る人の感性によることは否めません。 景観評価用の根拠に関し、色調について客観的にいえるのは朱と緑の補色関係なので言及して頂きたかったところです。 橋台に貼り付けられた玉石は、建設当時一般的であった野面積み護岸と歩調を合わせたのだと思いますが、周囲の岩盤と調和した色彩となっています。 自然共生の観点からは、河道内に橋脚を持たない吊り橋構造が採用されている点で、これについて様々な面から説明されておかれるべきであったと思います。	

23

施行前



施行後



作品タイトル	古都「高山」にふさわしい川
撮影場所	神通川水系 一級河川 苔川 高山市西之一色町
撮影者／撮影日	斉藤 賀津邦 ／ 平成28年9月2日
応募者コメント	人工的で単調とならないよう河川法線を蛇行させ、見た目にも配慮し割石の護岸ブロックを使用し、観光客や地域の方に親しまれる川を目指しました。河床は早期自然回復を目指して有識者指導のバース工法を取り入れ、また河床は平坦にせず低水路を蛇行させ、水際に変化を持たせたり、滞筋への配慮を行った。
<審査委員会からのコメント> 写真から、都市内の河川でできるかぎりの工夫がなされ、安全性の向上とともに、河床や水面の環境機能が格段に増進されていることは明かです。ただ、空間全体へ好影響を与えてい並木による木陰がなくなったのはやはり寂しさを覚えます。 元々急勾配で幅が狭く、護岸の根接ぎや多数の落差工でほとんど3面張りであった河道の拡幅改修が下流から行われてきた河川ですので、そのような経緯からは、「自然回復」というよりも「自然性の現出」を目指したとするのが適切かと考えます。 是非とも今後の変化についてのフォローをお願いしたく、また、緑陰については地元とともに考えていって頂きたい課題だと思います。	



作品タイトル	ポーラスブロックによる水際植生配慮型護岸
撮影場所	岐阜市尻毛
撮影者／撮影日	揖斐川工業(株)アイケイ関工場 / 平成28年8月26日
応募者コメント	岐阜市尻毛を流れる根尾川の護岸整備で使用されたポーラスブロックです。施工2年が経過していますが、日当たりの良い箇所でも水際に植生がされています。
<審査委員会からのコメント> 写真だけではアングルの決め方が難しく、どこが「護岸整備で使用されたポーラスブロック」なのか判り辛いので、やはり、事前あるいは施工直後の情報がほしいです。 おそらく、対岸の護岸の周辺環境との調和がとれ、植生状況も非常に良いところがポーラスブロックの使われている場所と判断されますが、そのブロック自体の様子や、植生が河床からなのかあるいはブロック面からなのかといった状況が暗くてよく分からないのが残念です。 また、ポーラスブロックの使用と植生回復の効果はよく示されていますが、護岸工としてみた場合には、水際や河床への影響も視野に入っていたら良かったと重います。	

25



作品タイトル	親子の水遊び
撮影場所	粥川
撮影者／撮影日	岐阜県郡上土木事務所 河川砂防課 / 平成28年9月
応募者コメント	一級河川粥川の当該区間では、度重なる豪雨により河床低下が進行していたため、平成23年度に巨石にアンカーを設置し、ワイヤー連結により4基の分散型落差工を河床に設置した。これにより、現状河床も安定している。なお、護岸には階段が設置しており、親水空間の役割を大いに果たしている。
<審査委員会からのコメント> 粥川では、被災後の復旧工事において河床から大量の巨石が護岸材料として取り出されたために河床は構成材料が細粒化したことで低下が進行し始め、また、河床の空隙が無くなってウナギの生息にも影響したといわれています。巨石といえども、それが載っている河床の材料が流されると、支えを失って容易に移動しますので、動きにくいものに連結して簡単には動かないようにすることが安定には必要で、この地点ではその工夫がなされているようです。 この地点の施工以前の状況は明確ではありませんが、写真からは粗石・巨石の移動抑制が上手いき、そこに上流からの少し小さい石礫もトラップされて水深を保つのに寄与し、親水空間の形成にも役だっている様子が親子の情景からも伺えます。 工法の観点からはアンカー部や連結部が見えないのは残念ですが、写真の構図がよく、手を加えたところが分からないくらい自然で、美しい景観を引き立たせているのは優れていると思われます。	